

九州ブロックにおけるDHEAT連携体制と行政の対応体制検討のための訓練形式による実証研究事業 概要

(九州ブロックDHEAT連携訓練)

(資料1)

- 目的 九州ブロック内において複数のDHEATが出動する大規模災害を想定した訓練を実施することで、保健医療福祉調整本部等の本部運営、全国協議会、地方協議会、被災自治体からなる3層の連携やDHEATの支援および受援に必要な情報の処理、対応要員の判断を錬成し、災害時対応の手順を確認すると同時に、課題を抽出し今後の検討に繋げる。さらに、この訓練により平時および発災時の地方ブロックおよび全国のDHEAT連携体制の構築準備を図る。
- 日時 令和4年11月12日(土) 13時～17時
11月13日(日) 9時～15時
- 場所 八重洲博多ビル 貸し会議室 ホールA
(福岡市博多区博多駅東2丁目18-30)

九州ブロックにおけるDHEAT連携体制と行政の対応体制検討のための訓練形式による実証研究事業 概要 (九州ブロックDHEAT連携訓練)

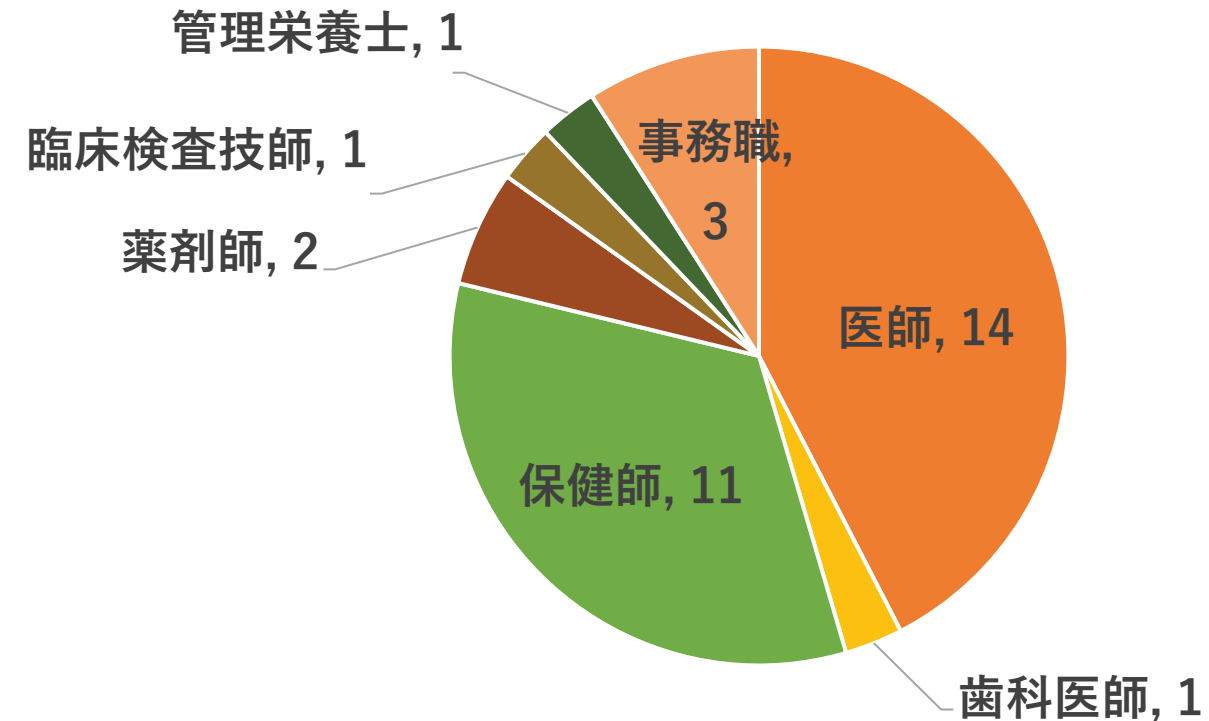
- 協力者

福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、北九州市、福岡市、熊本市に所属する統括DHEATを含むDHEATメンバー（候補者を含む）。各自治体3名まで（計33名）。

- スタッフ

厚労科研DHEAT研究班（服部班）
SIP研究班（市川班）
DHEAT事務局（日本公衆衛生協会）
DMAT事務局
岡山大学 原田奈穂子教授
厚労科研尾島班
福岡県DWAT、群馬県DWAT

協力者 職種内訳（計33名）



プログラム（1日目）

日程	開始	終了		内容	
11/12(土) (1日目)	12:30	13:00	0:30	受付	
	13:00	13:05	0:05	開会	
	13:05	13:10	0:05	事務連絡	
	13:10	13:40	0:30	講義1：DHEAT応援派遣の実際について	DHEAT応援派遣の際に必要な準備、DHEAT活動内容を理解する。
	13:40	14:10	0:30	講義2：令和元年佐賀豪雨災害における保健医療調整本部の活動について	保健医療調整本部の活動およびDHEATの応援を受ける際の対応等を理解する。
	14:10	14:40	0:30	演習1：DIG(Disaster Imagination Game)	今回の被災地となる自治体の概要、地理、施設等を理解する。
	14:40	14:50	0:10	休憩	
	14:50	16:30	1:40	演習2：災害時保健医療福祉活動（～24時間）	<p>（研究課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○被災自治体と保健所における対応体制の立ち上げ、連携体制構築、統括DHEATの役割。 ○発災当日におけるDHEAT事務局・地方ブロック及び全国DHEAT協議会、地域保健室との連携体制構築。 ○DHEAT応援要請・派遣調整・派遣準備。
	16:30	16:50	0:20	演習2：振り返り	
	16:50	17:00	0:10	事務連絡	

プログラム（2日目）

日程	開始	終了		内容	
11/13(日) (2日目)	8:45	9:00	0:15	受付	
	9:00	9:05	0:05	事務連絡	
	9:05	10:20	1:15	演習3：災害時保健医療福祉活動（～48時間）	（研究課題） ○DHEAT支援受援体制構築。 ○DHEAT間の連携体制構築。 ○DHEATの応援を受けて、本庁と保健所の連携、 統括DHEATの役割、DHEAT事務局・地方ブロッ ク及び全国DHEAT協議会、地域保健室との連携。
	10:20	10:40	0:20	演習3：振り返り	
	10:40	10:50	0:10	休憩	
	10:50	12:00	1:10	演習4：災害時保健医療福祉活動（～72時間） （避難所アセスメント）	（研究課題）避難所の情報収集、分析評価。
	12:00	13:00	1:00	昼食	
	13:00	14:20	1:20	演習5：災害時保健医療福祉活動（～72時間）☒	（研究課題） ○発災3日目における本庁と保健所の連携、統括 DHEATの役割、DHEAT間の連携、DHEAT事務 局・地方ブロック及び全国DHEAT協議会、地域保 健室との連携。 ○DHEATと保健医療福祉活動チームの連携。
	14:10	14:30	0:20	演習5：振り返り	
	14:30	14:40	0:10	休憩	
	14:40	14:55	0:15	総合振り返り	
	14:55	15:00	0:05	閉会	

検討項目

1 発災から24時間までの保健医療福祉活動（演習2）

- ・ 被災自治体と保健所における対応体制の立ち上げと連携体制の構築について
- ・ 発災当日における統括DHEATの役割や活動について
- ・ 被災県によるDHEATの応援要請とDHEAT事務局等による派遣調整・準備の流れについて
- ・ 応援要請を受けてのDHEAT事務局、厚生労働省地域保健室、及びDHEAT協議会（全国・地方ブロック）における連携について

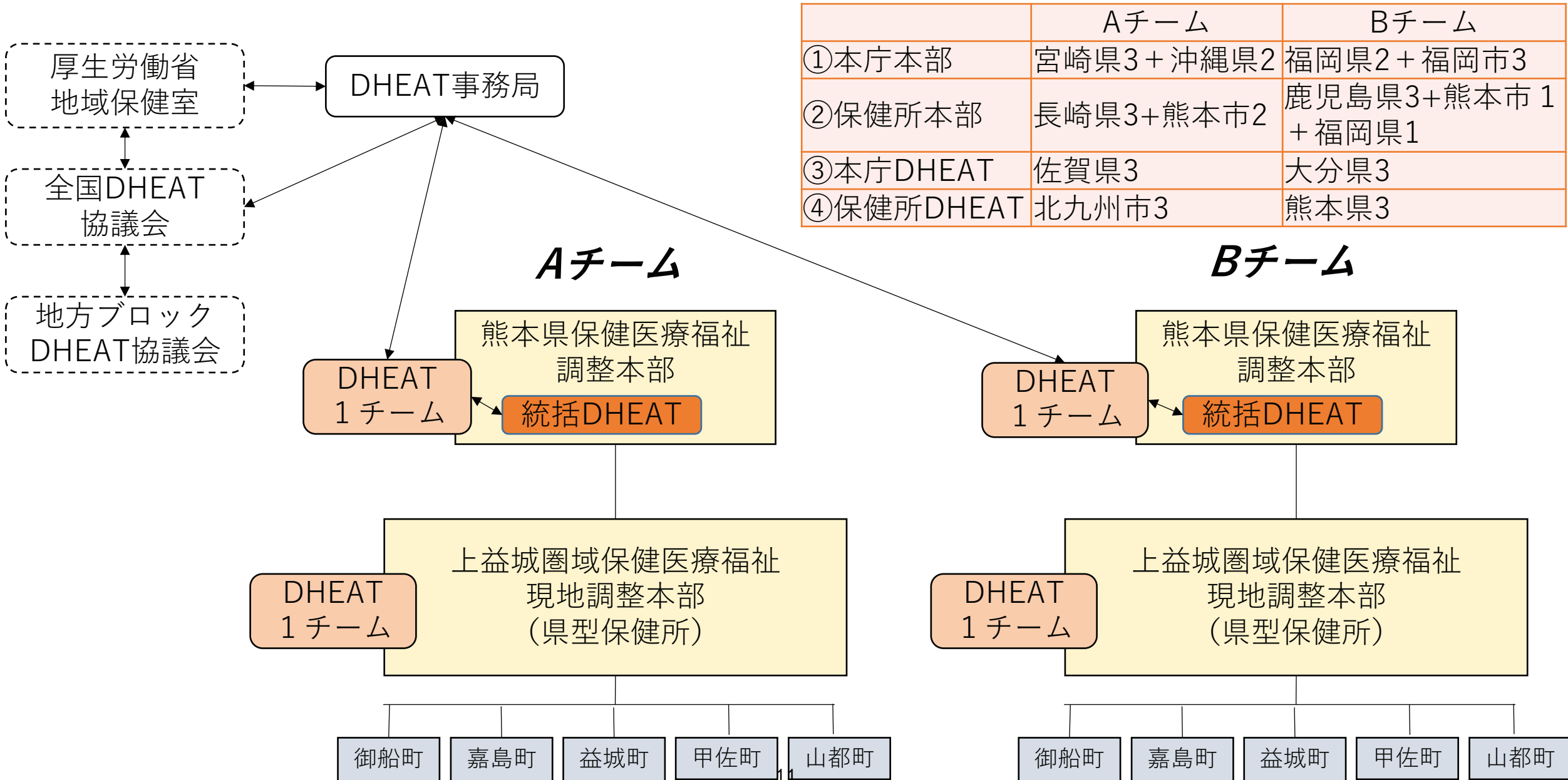
2 発災後24時間～72時間までの保健医療福祉活動（演習3、演習5）

- ・ 県庁、保健所におけるDHEATの支援・受援体制の構築について
- ・ 県庁、保健所におけるDHEAT間の連携体制の構築について
- ・ DHEAT支援を受けての本庁と保健所間の連携について
- ・ DHEAT支援を受けての統括DHEATの役割や活動について
- ・ DHEAT派遣調整等に係るDHEAT事務局、厚生労働省地域保健室、及びDHEAT協議会（全国・地方ブロック）における連携について

3 避難所アセスメント（演習4）

- ・ 避難所の情報収集、分析に係るDHEAT活動について

九州ブロックDHEAT連携訓練組織図



演習の方法



- TVニュース情報
- 関係機関からの情報
- イベント



- イベントへの回答



- ファシリテーター

- 保健医療福祉調整本部
- 保健医療福祉調整現地本部
(保健所)
- DHEAT

くものいと（保健所情報システム）の方法

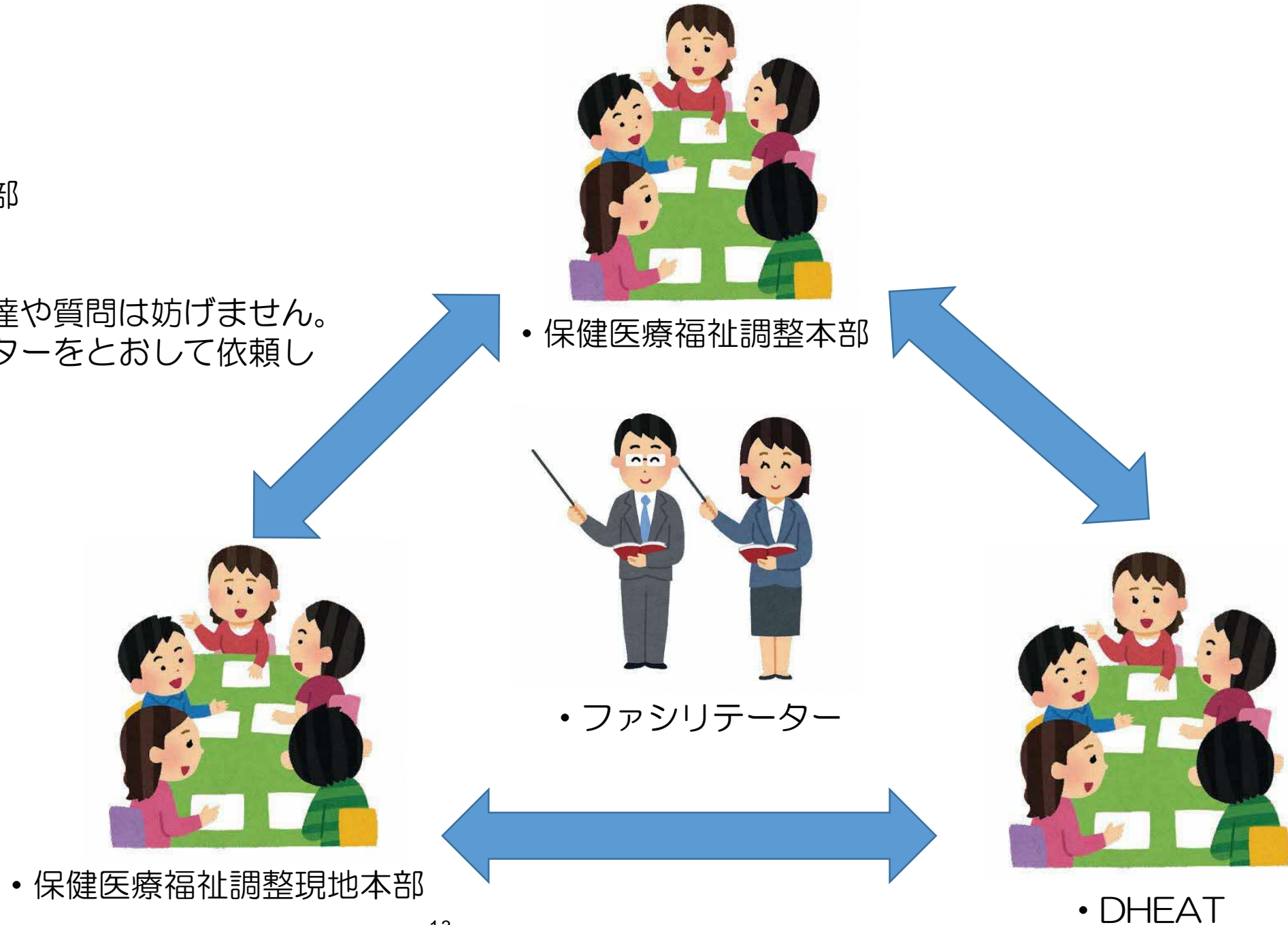
- Google Chromeか、Microsoft Edgeで、
<https://survey.d24h.jp/>
- アセスメント登録 → DHEAT養成研修基礎編2022
→ 保健所 → 保健所緊急時入力
→ 入力する保健所を選択 → 入力画面にいきます。
下の項目まで入力して保存すると、別画面になります。
- 画面右上にアイコンが3つ並んでおり、
雲にいくマーク  をクリック
- 災害コード「**22102**」を入力して送信する。



演習の方法

- 保健医療福祉調整本部
- 保健医療福祉調整現地本部
- DHEAT

上記の間における、情報伝達や質問は妨げません。
その場合は、ファシリテーターをとおして依頼してください。



アンケート調査

1. 対象者 : 協力者33名、スタッフ13名の合計46名。
2. 調査期間 : 訓練終了後から約1ヶ月間。
3. 調査方法 : 訓練の検討事項に沿って、統括DHEATの役割、本庁-保健所間の連携、DHEATによる支援受援体制、DHEAT間の連携体制、DHEAT事務局や協議会との連携について等に関する自記式アンケート（web）を実施した（全19項目）。
4. 分析方法 : アンケートを記述的に集計したのち、回答を同じキーワードや類似内容で分類し、定量的な集計を行った。
5. 回収率 : 58.7%（回答者27名）。

アンケートまとめ（全体）

○統括DHEATの役割や活動について

- 都道府県によって保健医療福祉調整本部における統括DHEATの役割、所掌範囲（権限含めて）に関するイメージ、考え方はまちまち。都道府県によらず共通する部分と都道府県ごとに異なる部分についての整理が必要。
- 統括DHEATの役割、所掌範囲が広い場合には、それをサポートする調整本部内体制の検討も必要。

○県庁、保健所におけるDHEATの支援・受援体制の構築について

- DHEAT受入れに当たって、平時から準備しておくもの（こと）、実際の受入れ時に用意すべきもの（こと）が整理されていると良い。受入れに関する受援者側の理解、心構えも必要。
- DHEATに対する事前の情報提供、説明のあり方についても検討が必要。
- 派遣要請、受入れ等に当たっての統括DHEATの役割も整理が必要か（都道府県によって異なる可能性あり）。

○県庁、保健所におけるDHEAT間の連携体制の構築について

- 県庁・保健所間のやりとりとは別に、本庁と保健所に派遣されたDHEAT間のやりとりは有用かつ不可欠（保健所の支援にも役立つ）
- DHEAT間の情報連携の仕方、手段、内容について統一的なもの、基本的な事項等が示されるとよい（D24Hを基盤としたやりとり？）
- 時間経過とともに、課題や対応すべき優先順位等が変化するため、そうしたことを踏まえた上で（フェーズに応じた）DHEAT間連携のあり方について基本的なことを整理し、提示できるとよい。

アンケートまとめ（全体）

○DHEAT支援を受けての本庁と保健所間の連携について

- 本庁と保健所間のやりとりにそもそもDHEAT支援があることを前提とするのかどうかについては疑問があるが、本庁と保健所間の連携に課題がある場合に、DHEATの介入（支援）が必要になることは当然想定される。
- その場合、本庁と保健所それぞれにいるDHEAT同士の連携により本庁・保健所の連携を支援することや、本庁と保健所それぞれにいるDHEATが本庁と保健所の担当を支援することにより本庁・保健所の連携を進めることなどが考えられる。
- フェーズが変わっても、本庁と保健所間のやりとり（連携）の基本的なあり方が変わるものではなく、状況に応じてDHEATが介入（支援）を行う。

○DHEAT支援を受けての統括DHEATの役割や活動について

- 県庁に入るDHEATは、都道府県ごとに保健医療福祉調整本部における統括DHEATの役割、所掌範囲（権限含めて）が異なることを念頭に臨機応変に統括DHEATを支援する、あるいは調整本部内で求められる役割を遂行する必要がある。
- 上記の点について、事前に把握しておくべきことや注意点等が整理されていたり（マニュアル？）、事例集などがあると良いかもしれない。
- DHEATは、各フェーズにおける統括DHEATの基本的な役割や活動内容を踏まえ、時々状況に応じて介入（支援）を行う。

○本庁及び保健所等におけるDHEATと保健医療福祉活動チームの連携について

- 都道府県の考え方にもよるが、（外部からの）保健医療福祉活動チームの調整はDHEATの一役割の例として明確化しても良いのではないか。

アンケートまとめ（全体）

○被災自治体と保健所における対応体制の立ち上げと連携体制の構築について（～24時間まで）

- アクションカード等の活用は発災直後の混乱した状況の中で対応体制の立ち上げをしていくために有用。
- 被災自治体等外部との連携は勿論のこと、県庁組織間の連携についても、その連絡手段やタイミング、内容等に関してアクションカードに具体的に記載しておくことよい。
- アクションカードが準備してあるとしても、できるだけ多くの職員が災害時に必要な知識、活動等について予め理解しておくこと、また、初動訓練を繰り返し行っておくことが重要。

○被災県によるDHEATの応援要請とDHEAT事務局等による派遣調整・準備の流れについて（～24時間まで）

- 応援要請のための目安・基準（タイミング含む）や、要請するか否か迷う際にサポートが受けられる仕組み等があるとよい。
- 被災県が応援要請を出す（判断する）前であっても被災状況の把握・共有が進むような方策があると良い（先遣隊もその一案）。
- 応援要請や派遣調整に関して、DHEAT事務局が担う役割・機能、県庁とDHEAT事務局とのやりとりの流れ等について明確にし、共通理解を図る必要がある。

○DHEAT事務局、厚生労働省地域保健室、及びDHEAT協議会（全国・地方ブロック）における連携について

- DHEAT事務局、厚生労働省地域保健室、DHEAT協議会（全国・地方ブロック）それぞれの関係性が見えない。
- いつ、誰（どこ）に何をどう言えばよいか分からないので、役割分担について整理・明確化することが必要。
- DHEAT事務局や厚生労働省地域保健室等からのリエゾン派遣があるとよい。（←先遣隊、応援DHEATの役割とも考えられる）

アンケートまとめ（全体）

（続き）

- 情報共有ツールを活用して、各機関・組織の活動状況がお互いに見えるようになると良い。
- 被災自治体の活動状況や課題の他、DHEATの追加派遣の必要性等の把握・共有に当たって、支援に入っているDHEAT間、更にはDHEAT事務局、厚生労働省地域保健室、DHEAT協議会（全国・地方ブロック）の連携のあり方について検討が必要。

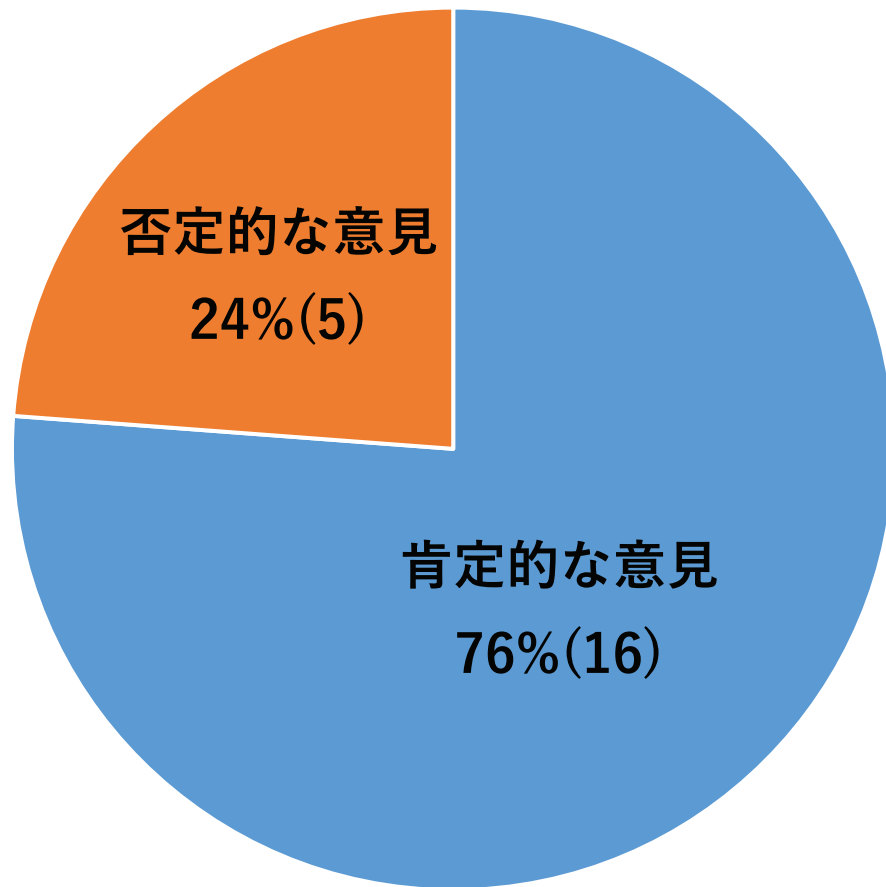
○避難所の情報収集、分析に係るDHEAT活動について

- 避難所アセスメントの標準的なやり方等の普及、あるいはノウハウの共有が必要。
- 自治体等によりDHEATに期待することがまちまち。
- DHEATが一般的に対応する範囲というものを整理できるのであれば、それを明示し、共通理解を図ると良い。（←むしろ地域の実情、要望に応じて、様々なことに対応していくことが求められている。）
- ICTツールの積極的な活用は情報共有やアセスメントに非常に有用。
- ただし、避難所情報の収集には、市町村職員や避難所運営者の協力が不可欠。それぞれの役割として明確に位置づけることや、平時の訓練、研修に組み込むことが必要。（←県、保健所が行う訓練に市町村等にも参加を求める）

○その他（訓練全体）

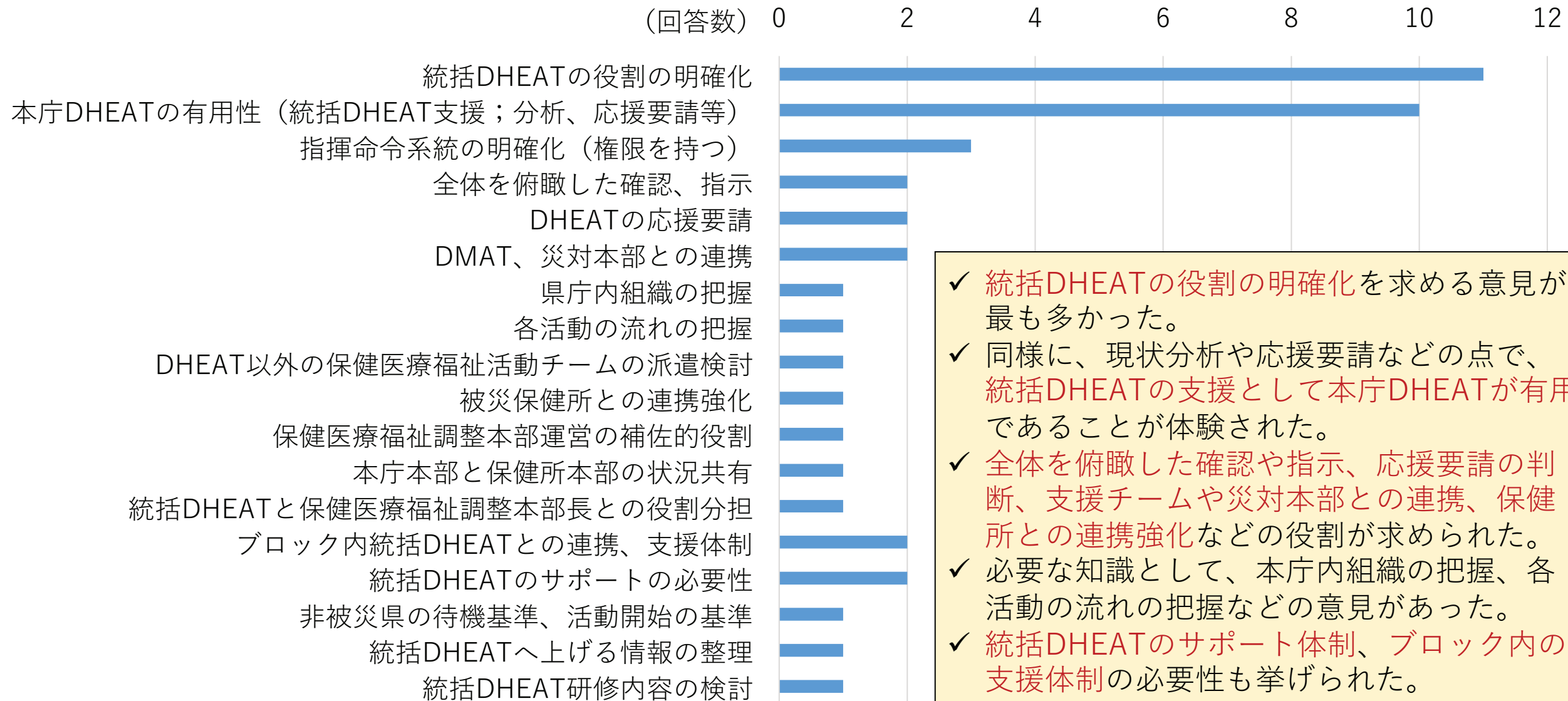
- 県の災害対策本部やDMATの訓練と連動させられるとよい。
- 今回のような訓練をブロックごとに実施する際には、サポート体制が必要。
- DHEATに関する様々な研修との関係性の整理、連動性の検討が必要。
- DHEATだけでなく、まずは保健医療調整本部（県・保健所）の役割が関係者にしっかり理解されることが今後の災害時活動に重要。

訓練の内容（プログラム全体）や運営について



肯定的な意見	
ファシリテーターへの評価	4
訓練方法への評価	1
訓練方法の検討	1
政令指定都市向け訓練の要望	1
否定的な意見	
DHEATの役割の明確化	1
参加者の役割の明確化	1
時間軸の混乱	1
時間短縮への意見	1
被害想定（架空＞実災害）	1

統括DHEATの役割や活動について



- ✓ 統括DHEATの役割の明確化を求める意見が最も多かった。
- ✓ 同様に、現状分析や応援要請などの点で、統括DHEATの支援として本庁DHEATが有用であることが体験された。
- ✓ 全体を俯瞰した確認や指示、応援要請の判断、支援チームや災对本部との連携、保健所との連携強化などの役割が求められた。
- ✓ 必要な知識として、本庁内組織の把握、各活動の流れの把握などの意見があった。
- ✓ 統括DHEATのサポート体制、ブロック内の支援体制の必要性も挙げられた。

応援要請、DHEAT事務局等による派遣調整・準備の流れについて

(回答数) 0 1 2 3 4 5

DHEAT応援要請の目安（根拠）、過去事例

応援派遣調整システムの有用性

DHEAT事務局等からの応援要請判断へのサポート

24hr以内のDHEAT応援要請検討の重要性

県庁DHEATの有用性（対策、対応の整理、体制構築）

本庁本部から保健所本部への応援派遣照会の重要性

DHEAT応援要請から派遣まで必要な時間数

被災県の応援派遣調整負担に考慮した自動的な支援体制

被災県と非被災県との情報共有（待機基準の必要性）

応援派遣調整システムについて（SMS使用の課題）

応援要請の余裕がない（先遣隊への期待）

災害救助法適用との関係

- ✓ DHEAT応援要請の判断に当たっては、**目安（根拠）**や**過去事例の共有**を求める声が多く、**事務局等から判断へのサポート**が欲しいという意見もあった。
- ✓ **応援派遣調整システム**は使いやすい、必要、という意見も多かった。
- ✓ 先遣隊およびブロック内で支援体制が構築され、自動的に応援派遣されることへの期待も見られた。
- ✓ **待機基準**が必要ではないか、応援要請から実際の派遣までかかる時間を知っておく必要があるのでは、という意見もあった。

DHEATの支援・受援体制の構築について

(回答数) 0 1 2 3 4 5 6 7 8

DHEAT受援準備の必要性



受援窓口としての統括DHEAT、保健所長の役割の明確化



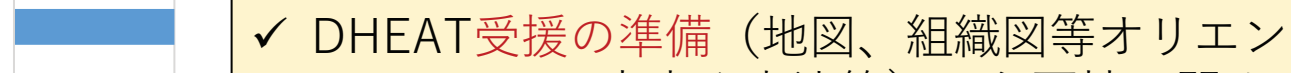
自治体の基本情報、組織体制、被災情報等の事前共有



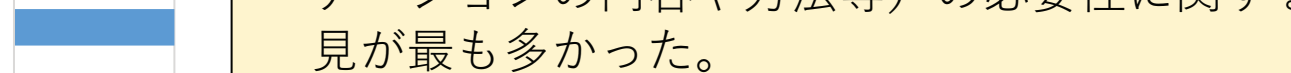
迅速な支援の有用性（組織体制の構築、課題の整理等）



双方の話し合いによる支援受援体制の構築



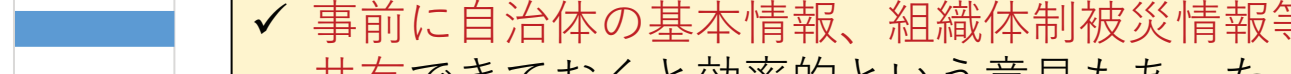
DHEATから支援内容の提案



DHEATの支援入り方研修（本庁、保健所双方）

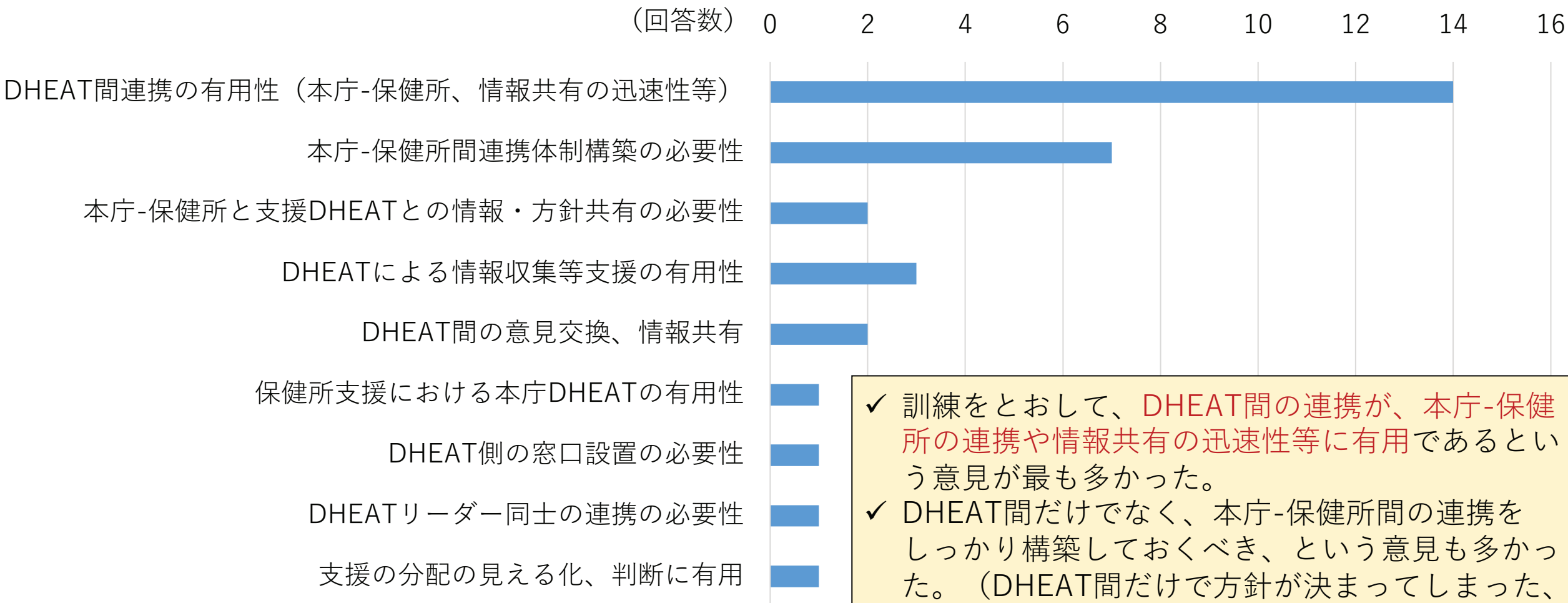


平時のDHEAT班編成



- ✓ DHEAT受援の準備（地図、組織図等オリエンテーションの内容や方法等）の必要性に関する意見が最も多かった。
- ✓ また、統括DHEATおよび保健所長に、DHEAT受援窓口の役割を求める声も多い。
- ✓ 事前に自治体の基本情報、組織体制被災情報等を共有できておくと効率的という意見もあった。
- ✓ 組織体制の構築や課題の整理等の点において、迅速なDHEAT支援の有用性が体験された。
- ✓ 少数ではあるが、DHEATの支援の入り方研修を求める声もあった。

本庁と保健所間の連携について

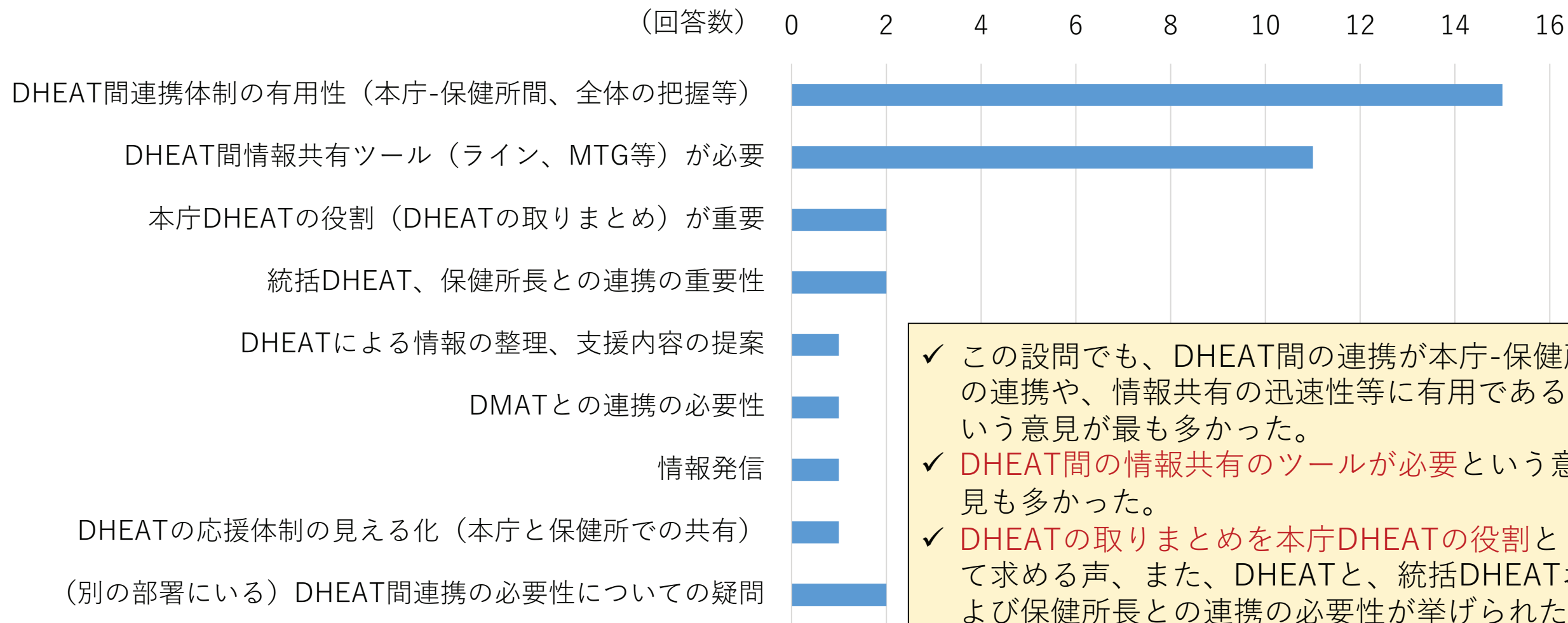


✓ 訓練をとおして、DHEAT間の連携が、本庁-保健所の連携や情報共有の迅速性等に有用であるという意見が最も多かった。

✓ DHEAT間だけでなく、本庁-保健所間の連携をしっかりと構築しておくべき、という意見も多かった。(DHEAT間だけで方針が決まってしまった、という演習もあったようだ)

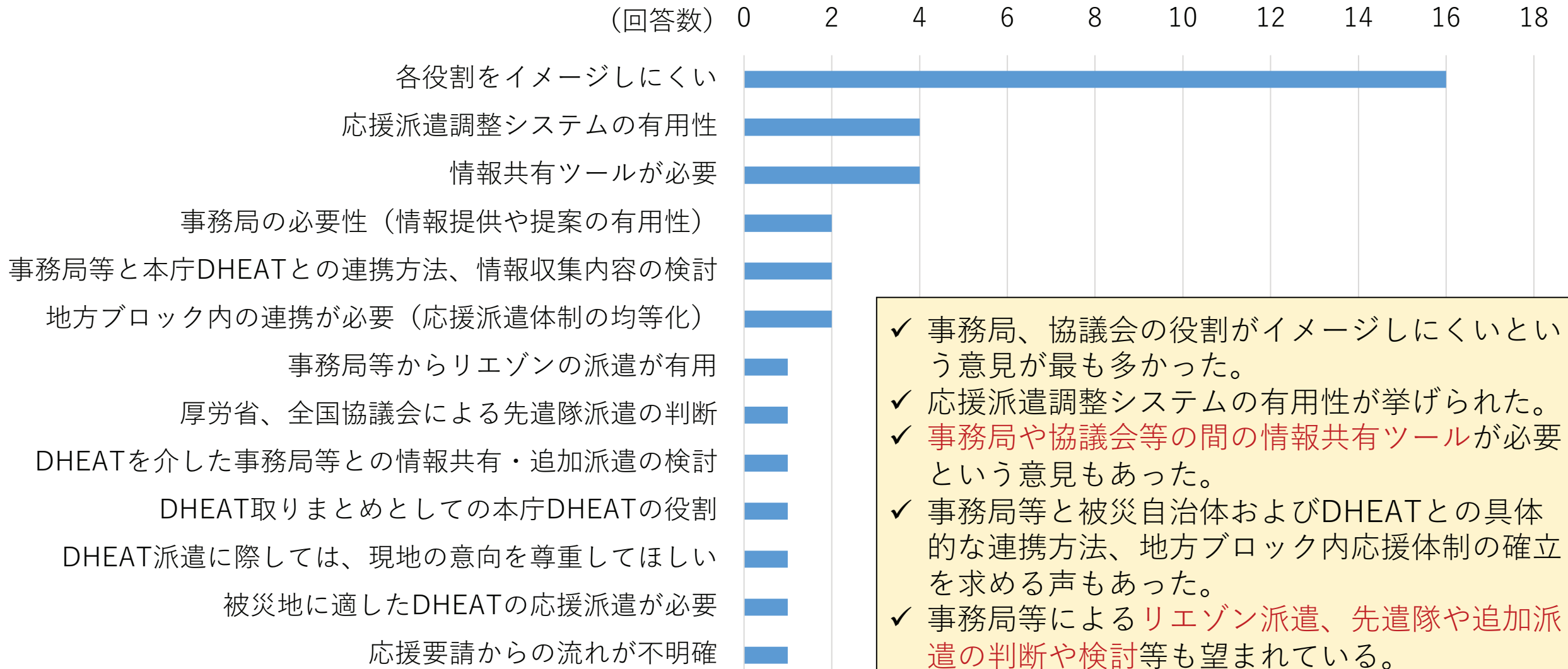
✓ DHEAT間の意見交換、情報共有が必要という意見も挙げられた。

DHEAT間の連携体制の構築について



- ✓ この設問でも、DHEAT間の連携が本庁-保健所の連携や、情報共有の迅速性等に有用であるという意見が最も多かった。
- ✓ **DHEAT間の情報共有のツールが必要**という意見も多かった。
- ✓ **DHEATの取りまとめを本庁DHEATの役割**として求める声、また、DHEATと、統括DHEATおよび保健所長との連携の必要性が挙げられた。
- ✓ **DHEATによる情報共有**だけでなく、**情報発信**も必要という意見があった。

DHEAT事務局、地域保健室、DHEAT協議会（全国・地方ブロック）との連携について



避難所の情報収集、分析に係るDHEAT活動について

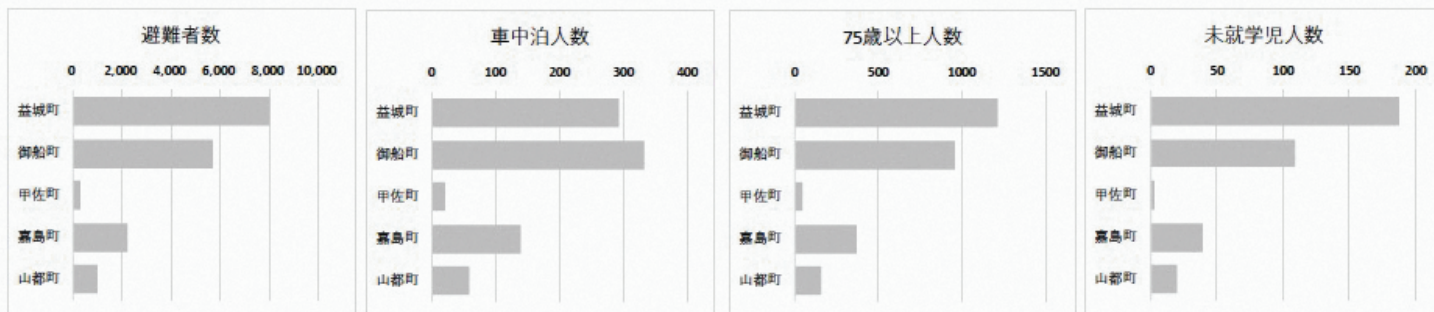


- ✓ 避難所情報収集、分析評価にはDHEATの支援が有用であるという意見が最も多かった。
- ✓ 訓練で用いた施設・避難所等ラピッドシートおよびD24Hが使いやすかった、有用であるという意見も多く、集計表の有用性も挙げられた。
- ✓ ラピッドシートを用いた情報収集体制の構築（統一化）と情報分析のひな型を求める声もあった。
- ✓ 避難所情報については、本庁と保健所の視点の違いを理解することや、経過の把握が必要という意見もあった。

【D24H 避難所アセスメント集計表】



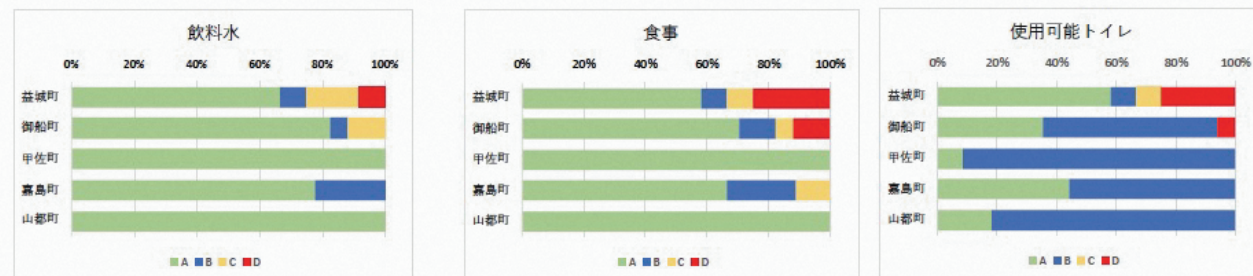
報告日の避難者数 (人)



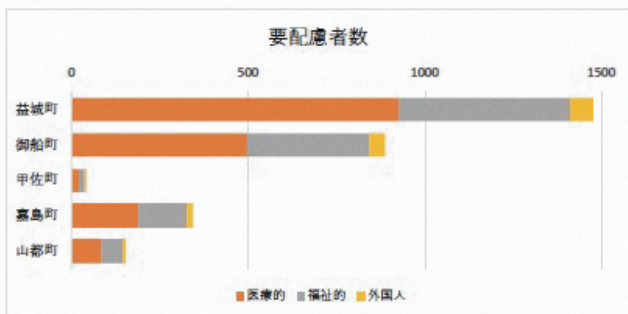
要医療サポート人数 (人)

	人工呼吸器	在宅酸素	透析	糖尿病	精神疾患	歯科疾患	妊婦
益城町	4	4	1	437	18	209	6
御船町	2	2	0	247	8	100	3
甲佐町	0	0	0	17	0	2	0
嘉島町	0	0	0	100	2	52	1
山都町	0	0	0	56	0	20	0

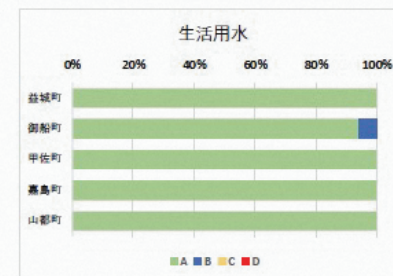
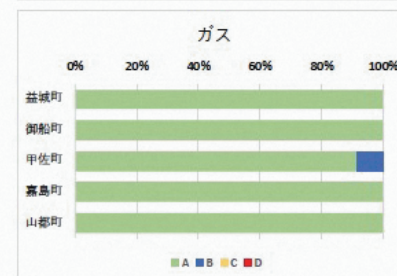
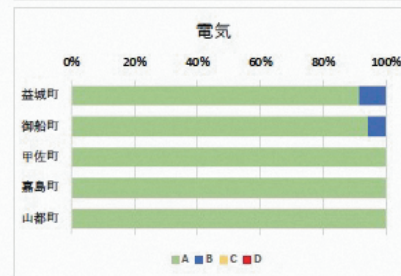
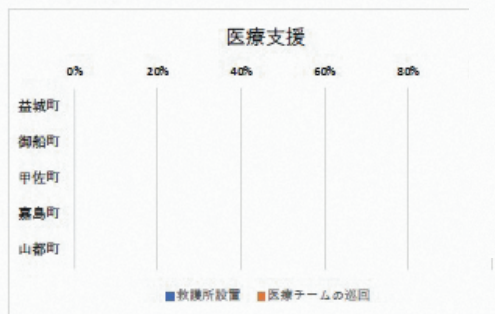
ライフライン・通信関係



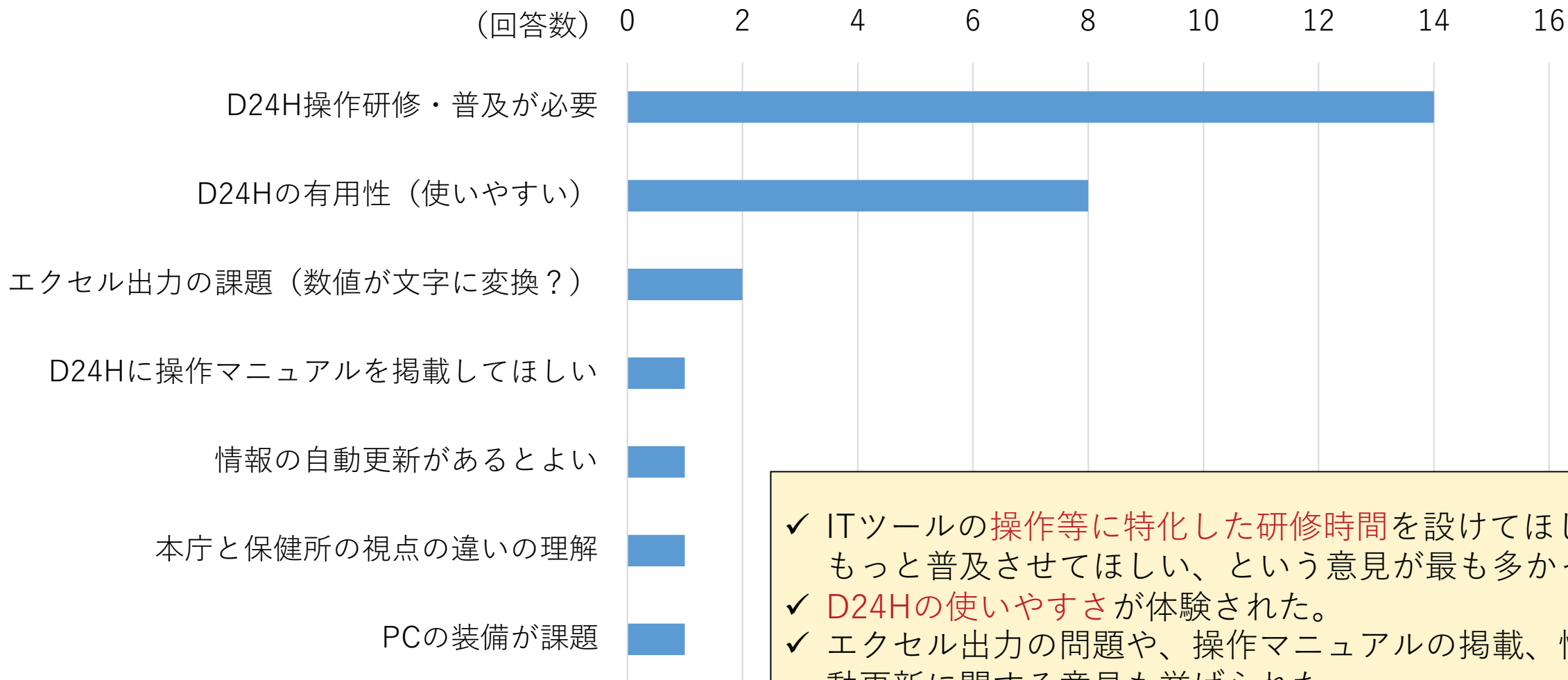
要配慮者 (人)



医療支援



ITツール（D24H,くものいと,ラピッドアセスメントシート等）について



- ✓ ITツールの操作等に特化した研修時間を設けてほしい、もっと普及させてほしい、という意見が最も多かった。
- ✓ D24Hの使いやすさが体験された。
- ✓ エクセル出力の問題や、操作マニュアルの掲載、情報の自動更新に関する意見も挙げられた。

各地方ブロックで訓練を実施していくことに関する助言等

